

HAT CROSS

神戸赤十字病院広報誌
2006 vol.9

子どもたちの歌声がこだました 恒例「クリスマスコンサート」



ロビーに響くうたごえ

昨年12月20日、当院恒例の「クリスマスコンサート」が今年も開催されました。ガス灯ともる吹き抜けのロビーが、当日は子どもたちの歌声に満ち溢れたコンサート会場に早がわりしました。

クリスマスツリーをバックに、神戸市立なぎさ小学校の4年生のみなさんが、代表曲「きよしこの夜」を演奏。その後につづいた「あわてんぼうのサンタクロース」「青空のエンジェルロード」では、子どもたちの伸びのある歌声からあふれでる迫力に圧倒されたみなさまも多数おられるのではないのでしょうか？ 透き通る歌声に耳をすましている、まるでロビーに天使たちの歌声がこだましているようでした。

たくさんの方々の保護者の方々も応援に越しくださり、会場は熱気に満ちていました。なぎさ小学校のみなさん、先生方、保護者の皆様には深く感謝申し上げます。

第2部では、当院小児科の山辺医師が「ある愛の詩」「マイウエイ」などのスタンダードナンバー7曲をクラビノーバ演奏しました。普段の診療場面では白衣姿の先生が、サンタクロースの真っ赤な衣装に身を包んで次々に音楽を奏でている姿に、目をパチクリさせながらのお子様もおられたようです。



山辺医師の演奏



神戸市立なぎさ小学校4年生のみなさま

最後は当院放射線科の若手グループ「生ちゅう」による「ラストクリスマス」。「明日があるさ」等バラードからポップスまで盛り込まれレパトリリーも大幅にアップ。

今回のクリスマスコンサートでは恒例のサンタさんからのプレゼントに加え、当院職員のアイデアで観客の皆様や入院中の患者様にもコンサートに参加していただくこと、手作りの「マラカス」を配らせていただきました。子ども達の歌声や、バンド演奏にあわせて会場のみなさんが振られるマラカスのリズム。やさしい一体感につつまれて、クリスマスコンサートは幕を閉じました。



放射線科 生ちゅうバンド



手作りのマラカス

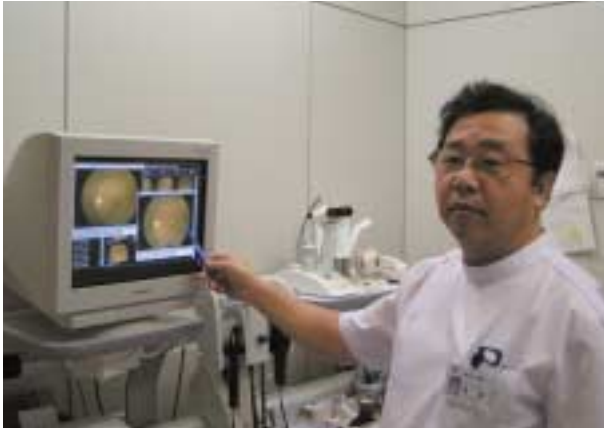


「ふつうに見えるって 大事な事です」

眼科部長 宮崎 茂雄

眼

科



宮崎眼科部長

★見えるとうとう

人間は周囲からの情報を受け取り活動していくために、視・聴・嗅・味・触覚の五感を使っています。これらの感覚はどれも大事なものです。現代の社会では特に「視覚（見ること、見えていること）」が重要になってきています。

たとえば、人間は誰でも歳を重ねてくると目の中のレンズがいつか視力の低下する「白内障」になってきます。その手術の時期については、三十年ほど前には視力が0.1程度に低下してきたときが普通でした。今では自動車免許が更新しにくくなったとき、あるいは眼鏡をかけても書類の文字が見にくくなってきたような比較的軽度の段階で手術を行うようになってきました。

当院眼科では、現代社会でますます重要になってきた「ふつうに見えること」の大切さを常に考えた医療を行っています。

★当院眼科の特色

眼科では視力検査、眼圧検査、視野検査をはじめいろいろな検査を行って診察を進めます。病院自体があたらしいこともあって最新の検査機器がそろっており、市内の眼科開業医からも詳しい検査のために患者様を紹介していただいております。また手術室にも最新の機械がそろっており、週に6件ぐらいのペースで眼科手術を行っています。白内障手術は片眼で2泊3日、両眼で5泊6日の入院手術を標準にし、眼瞼や結膜などの手術は通院で行っています。

このような検査・手術機器を駆使して、近視や老眼、眼瞼の異常、白内障や眼底の出血などによる視力低下、緑内障、あるいは物が二重に見えるといった脳の病気による目の症状など、幅広い領域の目の病気に対応しています。



眼科手術室

★こんなときは眼科へ

昨年夏に前任の眼科医が辞職したため3か月間充分な眼科診療ができていませんでしたが、11月からは常勤の眼科医2名と眼科検査や斜視弱視の訓練をおこなう視能訓練士1名の体制で、月曜・金曜の午前中は一般外来、午後は完全予約制での特殊検査や手術を行っています。今後はさらに眼科スタッフの充実や診療機器の整備を行い、より受診者の立場にたった眼科医療を進めていく予定です。

- ◆かすんで見えなくなってきた
- ◆線がゆがんで見える
- ◆目の前に虫のようなものが飛んで見える
- ◆見えない部分がある
- ◆目が痛い
- ◆目が疲れやすい
- ◆「しろめ」が充血してきた
- ◆「目やに」がでる
- ◆ものが二重に見える
- ◆視線がそろっていない
- ◆まぶたが腫れた
- ◆糖尿病を指摘されている

★担当医

眼科部長：宮崎茂雄（みやざきしげお）

昭和53年神戸大学卒

日本眼科学会専門医

日本神経眼科学会評議員

医学博士



外来スタッフ（後方列）
宮崎部長（前方列）

『治験って何？ 患者さまに守っていただくこと』



薬剤部長 松林 照久

治験は、まだ多くの人が使ったことのないお薬を試すことになりますから、慎重で十分な管理のもとで行わなければなりません。そのため、通常の治療に比べて通院や検査の回数が増えることがあります。このような場合、できるだけ患者様の負担を少なくするために、病院では種々の取組みを行っています。診察待ち時間の短縮を図り、治験や健康などに関する質問や相談に応じる専任の看護師・薬剤師を配置しています。

また、治験薬を使用している期間中の検査費用と一部のくすり費用を、治験を依頼している製薬会社にて費用負担をお願いし、さらに、一定の範囲での通院の交通費補助を行っています。

一方、患者様には治験中に守っていただくなくてはならないことがあります。

- ① 服用方法、服用期間、回数を正確に守ってください。
- ② 使わなかった治験薬は、必ず返却してください。
- ③ 食事や運動に関する注意や、飲酒、喫煙などの制限にご留意ください。
- ④ 他の病院を受診される場合や、市販薬を服用する場合には、必ず治験担当医師にご相談ください。他の病院の医師にも、治験への参加を伝えてください。
- ⑤ 治験薬を使い始めて、体調に変化やいつもと違う症状が見られたときは、すぐに担当医師に連絡してください。

3回にわたってお薬の開発、治験についてお話ししました。皆様の治験へのご理解とご協力を切にお願いいたします。

神戸空港総合訓練に参加して

開港前の神戸空港で、航空機事故の発生を想定した消火救難・救急医療活動の総合訓練が、関係各機関から700名の参加もと、平成18年2月3日に実施されました。

当院からは、坂田副院長並びに高岡循環器科部長を始めとする救護班2個班、ERU班の計18名が参加し、中等症患者の救護を担当しました。多くの人命を救うためには、重症患者は受傷からの60分以内、中等症は120分以内の病院収容を実現することが求められます。その目標を実現するため、神戸赤十字病院は、訓練・研修をともし各員の研鑽に努めています。



栄養課 だより

⑦

栄養課長
福井俊弘



国際都市神戸の姉妹都市はプロヴァンス地方にあるマルセイユです。その名物料理はなんといってもブイヤベース。早く言えばこれは沢山の種類の魚のごった煮です。元々は、漁師の食べ物だったそうです。オリブオイル、にんにく、そしてプロヴァンスに生えているハーブをふんだんに使った料理が特徴です。昔ながらの本物の味を再現・守るために「ブイヤベース憲章」があります。現在は貝類・伊勢海老などを入れたものを「ブイヤベース」と称して出す店がほとんどですが、憲章では「魚類」以外は入ってはならないので本来的にはブイヤベースとは違うのです。また、最低4種類以上の魚を入れること、とされています。主に、アナゴ、ホウボウ、カサゴ、マトウダイ、タラなどが入ります。

『本格派ブイヤベースの作り方』

- ① Aをオリブオイルで炒め、スープ用の魚のアラを加えてよく炒め、湯を加え1〜1.5時間煮込みBを加え、更に煮込む。（水分がなくなってきたら、少し湯を加えて煮る）
- ② ①を押しつぶしながら、裏ごし器またはザルでこす。
- ③ ②に具を加え、下処理した白身魚を火の通りにくい物を加えて煮て、火の通ったものから別の皿に取りだし、パセリをふる。
- ④ ③の具を取り出したスープを漉して、塩・胡椒・サフランで味を整える。（スープ・ド・ポアソン）ルイユを作る。（マヨネーズのような感じにでき上がる。）卵黄にチリパウダー・塩・胡椒を加え、オリブオイルを少しずつ加えながら、分離させないようによく混ぜ、レモン汁・にんにくを加える。
- ⑤ バケットを輪切りにして焼く。

【材料】

- A) 玉ねぎ(みじん切り) 2コ
 トマト(角切り) 2コ
 にんにく(みじん切り) 2コ
 じゃがいも(角切り) 1コ
- B) フェンネル少々、タイム少々
 ローリエ1枚
 ・玉ねぎ(厚スライス) : 1コ
 ・トマト(大角切り) : 1コ
 ・じゃがいも(厚輪切り) : 2コ
 ・パセリ(みじん切り) : 少々
 ・サフラン : 2g
 ・塩・胡椒 : 少々
 ・オリブオイル : 大さじ1
 ・バケット : 適宜
- 【ルイユ】
 ・卵黄1コ分
 ・にんにく(すりおろす) 3片分
 ・オリブオイル250cc
 ・レモン汁1/2コ分
 ・チリパウダー小さじ1/2杯
 ・塩・胡椒少々

呼吸器外科を新設

3月1日より、呼吸器外科を新設し、呼吸器外科部長として阪本俊彦が就任いたしました。

ここ数年、医療機器の進歩に伴い、呼吸器の手術も胸腔鏡を用いた低侵襲なものとなってきました。当科では十分なinformed consent(説明と同意)、Evidence-Based Medicine, EBM(明らかな根拠に基づいた医療)を重視し、胸腔鏡下肺葉切除および区域切除等の低侵襲な手術、さらに手術後の生活の質を考慮して、機能温存を目指した気管支形成術等を積極的に実践していきます。

また、呼吸器内科医、放射線科医と連携し、最適な治療方法を提示していきたいと考えています。

病院機能評価の

認定を受ける！

平成17年12月19日付で、財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価Ver.4.0一般に認定されました。

当院は基本方針の第二に、患者さまを中心として、人権と意思を尊重し、安心と満足が得られる医療の提供を



あげております。これを実践していくために、自己評価や患者さまのご意見などに基つき、医療の受け手である患者さまのニーズを踏まえつつ、質の高い医療サービスを効率的に提供できるように、日夜努力しております。今回、職員一同の努力をさらに効果的なものとするために、病院機能評価を受審し、第三者の目から当院をチェックしていただきました。

今後も、職員一同たゆまず努力して、患者さま中心の質の高い医療サービスの提供を進めて参ります。

第9回HAT健康セミナー報告

「うつ」のカゼひき「なん」にうつ

なぜ、「うつ」がこころのカゼひきなのか？実はうつ病の一手前、「うつ状態」は、カゼと同じく心身の疲れがたまっている時には誰にでも起こりうることで、まず休養が大切です。そして、こじらせるとカゼも肺炎になるように、うつも最悪の場合には「自殺」という形で死にいたることもあります。



前半は、村上心療内科部長より、うつの症状や治療法についての一般的な知識について、村松心理療法士より「“うつ”とつきあっていくためのヒント」というレクチャーでした。

後半の質問コーナーでは、ご自身の体験を語られる方もあり、「こちらの話の方が役立った」という声もあり、このテーマならではと思われました。「うつ」について、皆様が正しい知識を持っていただき、少しでも偏見をなくすお手伝いができればと願います。

病院敷地内、全面禁煙に！

4月1日より、病院敷地内では

全面禁煙とさせていただきます。

当院は、地域の皆様の健康を守るため、また質の高い医療を提供する病院として、患者さまへの治療効果や社会的な影響を考慮し、禁煙対策に取り組んでいます。

患者さまやご家族、お見舞いに来られる方々のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

基本方針

1. 患者さまを中心として、人権と意思を尊重し、安心と満足が得られる医療を提供いたします。
2. 地域医療機関との連携を保ち、患者さまに一貫した医療を提供いたします。
3. 救急医療、災害救護活動、国際救援活動を行います。
4. 内外の医療従事者の育成に努めます。
5. わたしたちは、日々研修・研鑽し、明るく活力のある職場づくりに努めます。

神戸赤十字病院「患者の権利に関する宣言」

神戸赤十字病院は、医療の中心は患者さまであり、医療行為が患者さまと医療関係者との信頼関係の上に成り立つものであることを深く認識し、ここに、「患者の権利に関する宣言」を制定いたします。

当院の全職員は、この「患者の権利に関する宣言」を守り、患者さまの医療に対する主体的な参加を支援してまいります。

1. 一人の人間として、その人格・価値観などを尊重され、医療提供者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
2. だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 病気、検査、治療、見直しなどについて、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受ける権利があります。
4. 十分な説明と情報提供を受け、納得したうえで、検査や治療方法などを自分の意思で選ぶ権利があります。
5. 自分が受けている診断や治療について、他の医師の意見を求める権利があります。(セカンドオピニオン)
6. 自分が受けている医療を知るために、診療記録の開示を求める権利があります。
7. 研究途上にある医療に関して、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたうえで、それを受けるかどうか決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでも中止を求める権利があります。
8. 診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。